

表 4カ国の協力協定で確認された各国の今後の取り組み

国・地域	取り組み内容
デンマーク	北海において2033年までに、ベルギーとデンマークを繋ぐ初期発電容量3ギガワット(GW)の洋上風力の「エネルギー島」(注)を設立。将来的にはドイツとオランダとの接続も予定される。また、2030年までに合計で10GW、2050年までに最大35GWの洋上風力発電容量を確立。
ベルギー	洋上風力および国境を越えた電力系統の相互接続を組み合わせた「エネルギー島」を設立。2030年までに5.8GW、2040年までに8GWの洋上風力発電容量を確立。
ベルギーとデンマーク	ベルギーとデンマークの「エネルギー島」の間の接続を含む、ハイブリッドな再生可能エネルギープロジェクトに関して、密接に協力する。
オランダ	2030年前後に、約21GWの洋上風力発電容量を確立。
デンマークとオランダ	デンマークに設立予定の「エネルギー島」とオランダとの接続方法について、洋上でのグリーン水素製造も視野に入れて調査する。
ドイツ	2030年までに少なくとも30GW、2035年までに40GW、2045年までに70GWの洋上風発電容量を確立。
ドイツとデンマーク	両国は既に初のハイブリッド洋上風力プロジェクトを開始している。両国は今後、ハイブリッドな相互接続を含むバルト海のボーンホルム島沖合の「エネルギー島」における提携、および北海におけるハイブリッドな再生可能エネルギープロジェクトに取り組む。
ベルギー、デンマーク、オランダ、ドイツ	北海において将来性のある洋上エネルギーシステムの確立を目的に、洋上エネルギーの開発・拡大に向けた取り組みを加速・進展させる。その第1歩として、遅くとも2040年までに10GWの最大発電容量を持つ「エネルギー島」を確立。戦略的目標の達成のため、各国は専門家チームを設置し、2022年12月に暫定結果を発表する予定。

(注)再生可能エネルギーを生産し、貯蔵する人工島。

(出所)4カ国の協力協定よりジェトロ作成